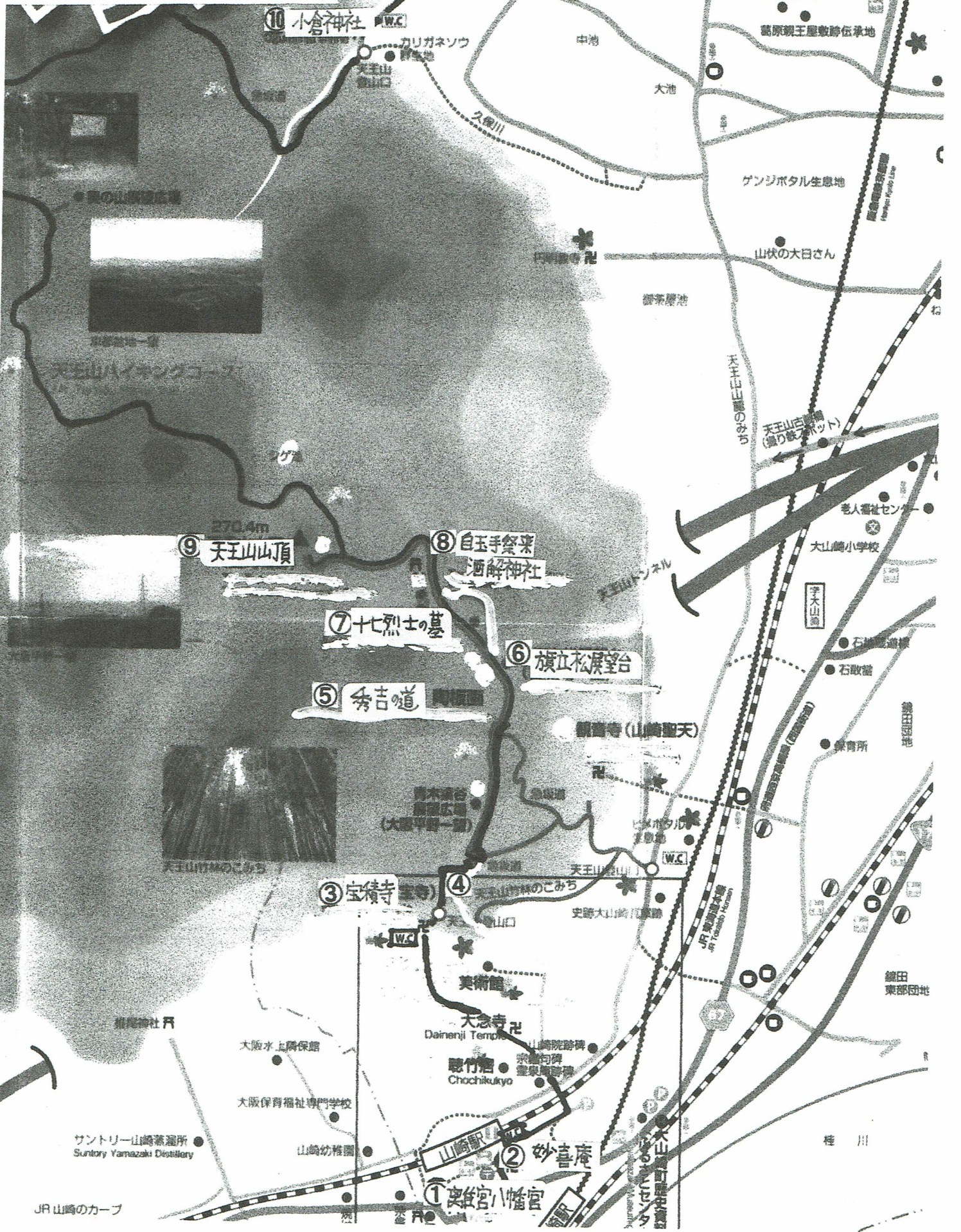


明智光秀最後の11日間



天下分け目の天王山明智光秀最後の11日間

①離宮八幡宮：貞観2(860)年大安寺の行教が宇佐八幡宮の分祀を受け、嵯峨天皇が営んだ事に始まる、平安時代末に当地で始まった荏(え)胡麻油生産が活発化し油座が結成され神社に会所が置かれ、室町時代になると大山崎油座は西は九州北部から東は美濃地方まで独占販売するほどになり大いに繁盛し大山崎は幕府から自治権を認められ発展した、現在でも油の神様として精油業者から熱い信仰を受けています

資料：神仏分離令：神仏習合(神道と仏教・神社と寺・神と仏)の習慣を禁止し区別させる、明治政府により出された「神仏判然令」(1868/3/27)の通達を言う⇒廃仏毀釈：明治維新に起き、仏教を廃止し釈迦の教えを否定する運動

②待庵・国宝(桃山時代)：切妻造の柿(こけら)葺き、四畳半サイズで、にじり口を初めて付け千利休が普請した唯一で最古の茶室、国宝の茶室は他2件で「如(じょ)庵」織田有楽斎の建仁寺塔頭正伝院→現在は岐阜の名鉄犬山ホテル内にある。「密庵」小堀遠州の大徳寺塔頭「龍光院」にある

③宝積寺(宝寺)：神亀元年(724)聖武天皇の勅願で行基が開基と伝わる、本堂内に本尊十一面観音菩薩立像、收藏庫に閻魔王と眷(けん)族像、仁王門に金剛力士像(いずれも鎌倉時代の重文)又唐より伝来(723年)の打出(30cmの棒)と小槌を奉納しています

資料：お釈迦様の身長が一丈六尺であったことから仏像の高さの基準とした、立像で尺6サイズ(4.8m)・坐像で8尺サイズ(2.4m) ちなみに橿原市の中心部に丈六町という地名があります

④三重塔(重文)：秀吉が山崎の合戦祈願で一夜で建てたと伝わる(桃山時代)、木津・宇治・桂川の合流地域と、その向かいに桜の名所で有名な「背割り桜」や、国宝の石清水八幡宮のある八幡山が見渡せます

⑤秀吉の道(陶板画)：天下取り物語を絵で解説(作)堺屋太一・(画)岩井弘 6ヶ所 1基目「本能寺の変」・2基目「中国大返し」・3基目「頼みの諸将来たらず」・4基目「山崎の合戦」・5基目「光秀の最期」・6基目「秀吉の覇権(ハク)」

資料：五三(五七)の桐：元来古くから皇室・朝廷の副紋として、一般的に家紋がない、不明な人が使用しています 五畿内の領主で戦国最初の天下人三好長慶が天皇から使用を認められた最初の武人、二人目は信長、三人目が秀吉で豊臣と改名してから認められる 又明治時代より日本政府や首相官邸が紋章として使っています

⑥旗立て松・展望台：「山崎合戦」で秀吉軍の士気を高めるために老松の頭上高く千成瓢箪の旗印を上げたところ戦局が優位に動いた縁起の良い松と言われている、現在の松は7代目です 古戦場や木津・宇治・桂川が合流し淀川となる三川合流地域が見渡せます

⑦十七烈士の墓：「禁門の変」(蛤御門の変)の首謀者の一人で元久留米藩士の真木和泉守保臣ら17名の眠る墓所です、元治元年(1864)7月長州藩は尊王攘夷と京都での復権を孝明天皇に直訴するため、軍を駐屯していた大山崎から京に向けて出陣するが、禁裏を守る会津藩兵や薩摩藩兵ら京都守護職の軍に阻まれ惨敗し、天王山まで逃れ山中で自刃する悲劇を生みました

* 久坂玄瑞(1840-1864)：長州藩士で尊王攘夷派の中心人物、1864年7/18乱勃発翌、19日敗戦濃厚になり洛内にある鷹司宮邸内で自刃する

⑧白玉手(たまたより)祭来(まつりきたる)酒解神社：大山崎地域の産土神、本殿は江戸時代後期の建築で、横にある神輿(ミコシ)庫は板倉形式でわが国最古(神社の説)で登録文化財に指定されている

資料：板倉形式：横板(3cm)を壁材として芯柱に落とし込み、壁塗りを行わない法方で、左官が必要なく大工のみで建てる工法を言う

資料：神社の発祥：神社は国外においては台湾やパラオでも存在する、弥生時代(紀元前5百年頃)から古墳時代(後2.3百年頃)に中国の広州地方より伝わり今日の基礎が築かれた。祭祀の対象は神道の神であり「八百万(やおよろず)」と言われた山・岩・森等々に宿るとし、社殿等はなかった、5世紀中頃より神社は神道の神様を祀る場所となる社殿を築く。明治時代に天皇を祀る場を神宮(伊勢神宮、平安神宮)・皇族は宮(北野天満宮=菅原道真公)・功人は神社(八坂神社)とし区別した、その中で大きな神社を大社(出雲大社、住吉大社、伏見大社)と呼んだ

⑨天王山山頂(270.04m)・山崎城跡：丹波山地の最南東端(山の先)大阪平野から京都盆地に入る位置にあり古来から重要視され、山上には度々城が築かれた、今残る土塁や切岸、井戸跡、礎石は秀吉が山崎合戦の後に築城し天下統一の出発点になった城です。天王山の名は祭神の牛頭神社から由来してる

⑩小倉神社：奈良時代の養老2(718)年鎮座と伝わる、桓武天皇の平安遷都で大内裏の鬼門除(裏鬼門=南西方面)けとして祈願したと伝わる、秀吉は家臣の片桐祐作を遣(ツカ)わし戦勝祈願をした最初の鳥居から薄暗く長い参道を歩くと立派な境内が広がる、小倉は山裾の「小暗い」場所から生まれた地名と伝わる

資料：鳥居の大きさ：1位熊野大社 T33.9m(コンク製)・2位大神神社 T32.2m(コンク製)・以下伏見稲荷(コンク製)がる鳥居の数は頂上の一の峰までで3131本、千本鳥居は815本・平安神宮(コンク製) 木製では明治神宮 T12×W17.1m・厳島神社 T16.6×W10.9m・伊勢神宮 T7.5m が特に名勝

資料：神社は全国に8.5万社余り：①稲荷系(伏見)3万・②八幡系(宇佐)2.5万・③天神系(北野)1.3万・④諏訪系1万・⑤宗像系・⑥八坂系・⑦熊野系 等々で未登録を加えると10万社あると言われている

◎全国にお寺は() ◎全国にお城は()

なだらかな下り道を北東方向へ30分程歩く JR 西天王山駅へ

資料

○光秀の地位上昇のあゆみ：①1568年三好三人衆が籠る芥川城を落とす→②1570年浅井・朝倉と戦い勝利する→③宇佐山城主に→④比叡山焼き討ちで武功を建て5万石に取り立てられる→⑤1572年天守を有する坂本城を築城→⑥足利義明が信長に拳兵籠城後降参し都から追放される→⑦1575年信長の命を受け丹波攻めを開始4年後に平定その功績で加増34万石を領する→⑧1577年(天正3)亀山城を建てる→⑨同時期に信長は光秀を4官領筆頭格の「近畿官領」に置き、秀吉を「中国官領」、柴田勝家を「北陸官領」、滝川一益(えき)を「関東官領」と名付ける又、次第に信長は光秀の『政治手腕』室町幕府との縁で『軍事的手腕』、『文化的教養』和歌、連歌、茶の湯等を認め重用するようになる

○本能寺の変：家康を安土城に招き主君信長よりその接待係を命ぜられ、その料理にケチを付け罵倒された悪夢の5月25日、今から「432年前の天正8年1582年6月2日」その7日前的5月26日、光秀は亀山城に入る→翌27日愛宕山で戦勝祈願→28日連歌会を開き“ときハ今雨が下しる五月哉”を詠む、亀山城に戻り斎藤利光等わずかの重鎮達に下剋上の乱を起こす決意を告げる、大きな理由は代継の信忠が信長の傍に居る事→6月1日再度亀山城を出陣→2日未明本能寺を襲撃し信長を撃

ち、妙覚寺に宿泊の嫡男信忠を襲撃し自害をみとどける→直ちに坂本城へ帰る→諸方々に援軍の要請を発信→5日安土城に入る→7日勅使吉田兼見と会談→上洛し禁裏参内(→10日洞ヶ峠に出陣→11日鳥羽陣屋→12日勝竜寺城付近で羽柴勢と戦闘→“13日山崎の合戦”を迎える

*吉田兼見:(公卿ヶ)・神道家・吉田神社神主)友人で直前に会っている、兼見卿(シヨク)記は6月2日~14日の記実、日記が存在する

○山崎の合戦:中国地方備中高松城攻めをしていた秀吉は急遽毛利氏と和睦をなし山陽道→西国街道をひた走り京を目指した、それを知った光秀は軍勢を摂津・河内へと進め長岡の勝竜寺城あたりに布陣(恵解山古墳)した、12日羽柴軍は富田の普門寺で軍議を開く、13日秀吉は本陣を宝積寺に置き、先陣の高山右近・中川清秀らは1日早い12日に布陣・羽柴秀長隊は天王山の山裾と淀川の狭い間に陣を取る、申(サル)の刻(午後4時半頃)戦いは始まる、秀吉軍4万数千に対し光秀軍1万5千が円明寺川(現小泉川)で激突する、戦いは短時間で決着し、敗北を知った明智の兵は方々に非散し、光秀は夜陰に乘じわずかな手勢を伴い北へと逃れ桃山丘陵を越えた小栗栖(おぐりす)で土民の襲撃を受け生涯を終える

○三日天下:肥後細川家に伝わる「明智光秀公家譜覚書」には、本能寺の変後、光秀が細川藤孝・忠興父子に味方になるように説得した内容が書かれ、それが所収されている、その中に禁裏参内し従三位。中將に叙任された上で征夷大將軍の宣下を受けたとも書かれている=信意の程は疑わしいとの研究者が多い、「本能寺の変」が天正10年6月2日未明に始まり~13日なので、実際は11日間の天下であった

注:禁裏=内裏、禁門(建礼門)の内部は天子が住む宮中(禁は厳しく出入りを制限する)

資料平安京の入り口=羅城門・大内裏=朱雀門・朝堂院=応天門・内裏=建礼門

○謀反の要因?:四国陰謀説・怨恨説・野望説・黒幕説等数々あり、ここ1~2年で新たに発見された資料を中心にして新説が多く出てきている、その一つが信長の領地配分に対する考え方がこの1年ほどで大きく変わり実力主義でなく身内偏重主義になった事への不安・不満が大きい 例えば四国を長曾我部忠親の支配から自身の子供信雄・信孝らを重用する、いわゆる信長一族体制の構築にある、その構造改革反発に光秀は大きな憤りを感じたのではないかと、非常に重く感じられる

○麒麟(キリン)とは:5行説=東の青龍・南の朱雀・西の白虎・北の玄武・中央の麒麟 すべてが地上には存在しない想像上の生き物

とき(土岐・刻)は今 あめ(天・雨)がしたしる 五月哉

光秀なら鳴かぬなら 放してしまえ時鳥(ホトトギス・不如帰・霍)

ご注意 交通ルールを守りましょう。

事故・災害について当会は一切責任を負いません。

関西歴史散歩の会 久野洋人 携帯 090-1583-9781

参考資料: wikipedia

JR 東海ウェブサイト

よみうり文化教室

京都感動社「仏像の見方」

メルパルク京都